

新潟県山野草を
たずねる会機関紙
第1号

事務局
長岡市下条町1,406-6
印刷所
佐藤印刷

機関紙『かしのみ』の名称に寄せて

新潟県山野草を
たずねる会々長 小日向 孝

山野草をたずねる会の機関紙の名称が「かしのみ」と決定いたしました。会の目標達成への着実な発展を表現したものであります。

樫の木はブナ科に属する常緑広葉樹で一般にヤブツバキなどと共に照葉樹と呼ばれています。この木の仲間には、ウラジログシ、アカガシ、アラカシ、シラカシ、イチイガシ、ツクバネガシ、ウバメガシなどがあります。

生育分布域は温暖帯域で植生学的にはヤブツバキクラスに属します。なかでもウラジログシは、県内海拔一〇〇M内外の内陸部ブナ帯下部まで生育が認められますが、生育状況分布は少なくなっています。しかし、人々の生活活動の自然への干渉によって、現在、スギ、コナラ林でおきかかわっている地域でも、内陸部丘陵地までかなりの面積は、かつてはカシ類のウラジログシ、アカガシ、シラカシが生育していたものと考察されています。

樫の木は、人々が森に食を求めていた時代には欠かすことのできない「生命の木」であり、生活の木でもありました。農耕を営むようになってからの人々も、集落の裏山の森を聖域として神社を建て心の支えとし、ふるさとの森、ふるさとの木として残してきました。また、カシの実の酒のつまみとして美味であり、現在も広く利用されています。

環境問題がクローズアップされる中で、樫の木は常緑樹ですから、人々の生命を支える酸素の供給者として一年中役立つのです。また、空気の浄化、騒音防止、治山、治水、防火、震災防止など偉大な力をも、もっているのです。また、幼苗のときは陰樹で他の木の下で我まんして育ち、後に生育して半陽樹、やがて他の樹木に替わって陽樹となり、自分の天下となって三百年以上生き続ける出世樹でもあります。

「かしのみ」は、これまで述べたようにいろいろな意味を含んでおります。会員一人ひとりがカシの実として育ち、後にすばらしい樫の木になって、すばらしいふるさとを森をつくりあげたいものです。

秋の野に学ぶ ― キノコ採集と識別 ―

〈採集された主なキノコ (宮本地区) 〉

1. ハナビラニカワタケ (広葉樹枯枝)
2. スギヒラタケ (杉切株倒木)
3. クリタケ (広葉樹倒木の根木切株)
4. スギエダタケ (杉林)
5. フウセンタケ (松混林)
6. チャホウキタケモドキ (針葉樹枯木上)
7. ヤマブシタケ (ナラ・カシ・ブナ枯幹)
8. アブラシメジ (広葉樹林)
9. ナラタケ (広葉樹切株倒木地上)
10. カノシタ (赤松混林)
11. スッポンタケ (各種林)
12. キチチタケ (各種林)
13. アワタケ (雑木林)
14. ドクベニタケ (広針葉林)
15. イロガワリハツ (赤松林)
16. ムササビタケ (広葉樹林)
17. オシロイシメジ (針葉樹林)
18. キツネノチャブクロ
19. アカヤマタケ
20. ツチカブリ
21. ベニヤマタケ
22. ベニセンコウタケ
23. ベニナギナタダケ
24. オオホウライタケ
25. サケツバタケ
26. (注) ハナホウキタケ (広針葉樹林)
27. (注) サマツモドキ (針葉樹松杉林)
28. (毒) コテングダケモドキ (松林広葉林)
29. (毒) モエギタケ (針葉樹林)
30. (毒) シロタマゴテングダケ (広葉樹林松混林)
31. (毒) ニガクリタケ (針広葉樹切株倒木枯幹)

他

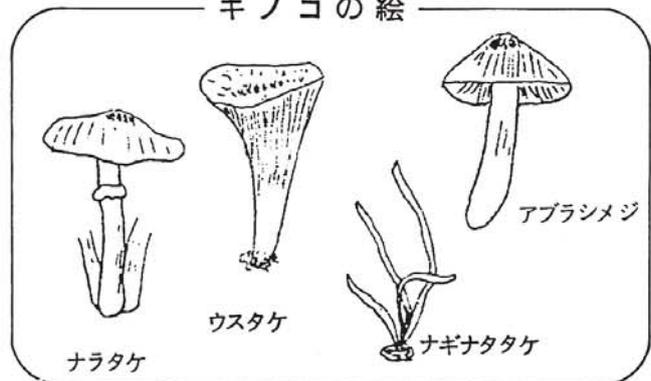
事前に採集したいいくつかのキノコの見本で、毒・食の別や、キノコの名前の説明を聞いた後、林に入った。左記のような多くの種類のキノコが見つかった。

多く採集するコツは、

- ① 林の木の種類
- ② 茂り具合 (湿気)
- ③ 方位
- ④ 成長の時期

などを良く考えることだそうです。難しいですね。

キノコの絵



86・夏の植物生態観察

糸魚川・蓮華温泉方面

植物群落調査表

調査者 山野草とたすねる会

記録者 同上

群落名 アカシデ

Ort (場 所) 糸魚川 不動山 Datum (調査日) 61・8・24
 H₁ (高 木) 20m 95% H₂M (亜高木) 420 m
 H₂ (亜高木) 10m 20% Mikrorrelief (微地形)
 S (低 木) 5m 90% Aspect (方位) 初秋
 K (草) 1m 95% Kont. Geseit (隣接群落)
 M (コケ) m Geol. (地質)
 qm (調査面積) 20 × 20 Boden (土壌)
 Exp. u. Neigung (方向傾斜)



方向 (南西) 傾斜 (20°) 出現種数 (60)

B. 44 アカシデ	S. + ヤマブナ	K. + 9チソウ
11 アナ	+ タンコクバ	+ イチヤクソウ
+ コナラ	+ エゾイタヤ	+ ウケクワ
B. 33 アカシデ	+ ナラタケ	+ ヤブヤブ
S. 22 オオバコモソ	+ オウゴン	+ ミズナラ
11 ムラサキア	K. 44 オイワカガミ	+ マルバマンサク
11 アカシデ	33 ヒカサケ	+ アズキナシ
11 ムラサキア	22 イワカガミ	+ コマユミ
11 ムラサキア	11 チゴユリ	+ フシ
11 マルバマンサク	11 トキワキ	+ ヤマウルシ
+ ツクバネ	11 ミヤマナツコ	+ ヒメアオキ
+ リヨウブ	11 シシガシラ	+ ヤマモミジ
+ ヤマウルシ	11 ツルアトクシ	+ エゾツリバナ
+ コシアブラ	+ ヤブコウソウ	+ アクシバ
+ ミヤマサマシ	+ ツクバネ	+ オオハモト
+ マルバアサギ	+ ミヤマサマシ	+ フリ
+ シナノキ	+ タンコクバ	+ オヤマボクシ
+ ナラハゼ	+ ツルアトクシ	+ サワフクギ
+ ヤマツツジ	+ コマユミ	+ エンジュ
+ ハナヒロキ	+ アズキナシ	+ ミヤマハコ

夏の植物生態観察が八月二十四日(土)、二十五日(日)の二泊二日で県緑地環境保全地域指定のアカシデ林(不動山・糸魚川市)および蓮華温泉(中部山岳国立公園)を中心に実施しました。心配された天候にも恵まれ快適な観察会でした。主な観察コースは、能生・白山神社社そう林・糸魚川不動山アカシデ林・蓮華の森・ひすい園など

不動山緑地環境保全地域



本県は豊かな自然環境を、県民の生活に恵みながら、約450メートルの長さを持つ、本県唯一の山岳国立公園指定の緑地環境保全地域として指定された。不動山緑地環境保全地域は、山岳部一帯を中心に、豊かな自然環境を保全している。美しい自然、大切な自然環境を、後世に伝えるため、緑地環境保全地域として指定された。美しい自然、大切な自然環境を、後世に伝えるため、緑地環境保全地域として指定された。

位置 糸魚川市糸魚川町糸魚川
 面積 約60ヘクタール
 1 山岳部
 2 山麓部
 3 山頂部
 4 山麓部
 5 山頂部
 6 山麓部

昭和61年3月25日 新潟県・糸魚川市

環境保全地域 アカシデ林



蓮華温泉ロッジ前で

昭和61年度活動報告

テーマ ～ 植物の生きざまに学ぶ

1. 早春の山野草をたずねる ・スハマソウの植物群落 他
 ・すみわけ 冬芽 食用
2. 春の野を歩き、山菜を食べる (食用、薬用)
 ・方面 東山
 ・時期 5月11日(日) 風谷山登山口付近
 5月25日(日) 山古志方面
3. 夏の植物生態観察と採集 (健康茶、生態、茶花)
 ・方面 糸魚川 (アカシデ林 他) 蓮華の森
 ・時期 8月24日(日) 25日(月) 1泊2日
4. 秋の野に学ぶ (キノコ 果実酒 他)
 ・方面 長岡近辺
 ・時期 10月12日(日) 北魚、広神、只見方面
 10月19日(日) 宮本方面
5. 学び合う会
 ・場所 長岡市内 (吉野茶屋)
 ・時期 12月17日(水)
 ・内容 (親睦、反省会、実践観察発表会)
6. 機関紙の発行 (活動のあしあと)

昭和60年度活動報告

1. 早春の山野草をたずねる 3月29日
 西山・刈羽方面
2. 春の野を歩き、山菜を食べる 5月6日
 東山方面
3. 総会 5月25日
 横浜国大 鈴木邦雄博士を迎えて
4. 夏の植物生態観察 8月24～25日
 妙高方面
5. 秋の野に学ぶ 10月20日
 宮本方面
6. 山野草を語り、活動を反省する会 12月14日
 (今後の予定)
 機関紙の発行

花との出会い

長尾多万以

山は晴れた日に、草木を愛でつゝ登るものと思っておりましたのに、山登りの苦しさ、その魅力に引き込まれたのは、数年前の十月三日の妙高登山でした。

花のない季節の登山に参加するなど、今考えると不思議なのですが、妙高という名前に憧れ、出かけたのかもしれない。

燕温泉に一泊し、翌朝四時、それぞれ電燈で足許をたしかめながらの出発でした。

やがて明け方の光の中に浮かびあがってみえた裸木の林の荘厳さ、朝日にきらめく霧氷が風の渉るたびに奏でる、ひそやかな、すずやかな音響、青空に透かし見る木々の梢の精緻な美しさ。七合目あたりから、ぬける様な靑空の彼方に富士山がくっきりと望まれ、これにも驚き感動しました。

前日20cm位降り積った新雪を踏みしめての行軍で、やがて靴の中はダボダボ、リーダーの方や、おじいさんから孫さんまでの、賑やか一家にも励まされ、心臓がとび出る様な思いをして、一步一步、あえぎ、あえぎ登りました。頂上の雪原での中食は、薄い敷物しか持参しませんので、冷たくてらくらく休めませんでしたが、手なれた様子でコーヒーを沸かし御馳走して下さる

方や、みそ汁を作り、デナーの様に、レタスやきゅうり、ゆで玉子など大きな器に盛りあげて召し上がる方など、びっくり感心することはかりでした。

昨年八月二十五日、二度目の花を訪ねての妙高登山は「熟年(とし)」と暑さに茹だつた様になり、群れ咲く「とうやくりんどう」や健康美女そのものの勁い「とりかぶと」の花に励まされやと頂上まで行けました。同じ花でも、銀山平の、たおやかな妖しい美しさとは大違いで、何をお尋ねしても、たちどころにお教え下さる小日向先生、撮影をなさり、へこたれ気味の生徒に次々と綿密に調査御教示下さり長靴で颯颯と先導なさる超人ぶりには、本当に、畏れたまげました。

又下山途中、雷雨にあい、紫光の稲妻と同時に、谷を転がり打ち渡る雷鳴に、息の止まる思いもしました。逢う人毎にその時の感動を話しますと「年寄りの冷水」とからかわれるのでした。「山は、はあ卒業しました」と言っておりましたのに、霧氷を渉る風の音、霧の湧き立つ谷々、お花畑を淡く濃く流れる霧の幻想が、又来る夏の山行きを、花との出逢いのあれこれを、さ、やきかけるのです。

花にまつわる幼い日の思い出。母がさかりを過ぎたアザレアの花を摘む。色とりどりのはなびらの山と、俄かにさむぎむと小さく、剪りこまれた裸木のいたましき、悲しさ。十数年前、植物好きの姉の供をして、はじめて山らしい山、月山へ、山開きの日登った感

激。蝶が蜜を吸う姿に似たむらさきやしおつゝじの色濃い花が、今も目に浮ぶ。

三好達治の

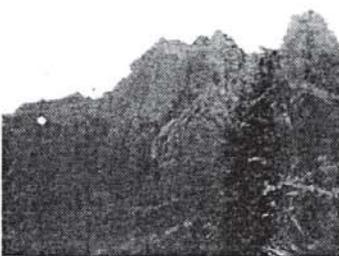
青葉がくれのたかどのにかげの揺籃(ゆりかご)の夢はなに桐の花はた合歡の花あふがぬ人の眼にかくれ木ぬれに たかき花はよし木に咲く花が好きと、花にまつわる本を手にして数年、絵や写真と実物が一致出来ないもどかしさ。花木の名前と属名が知りたいと切に思う様になり、その希いの叶った昨年は本当に感謝感激でした。植生の調査を教えて頂き、ようやく未知の厚い扉が

ほんの少し、開きかけた思いです。花に逢うことは季節にめぐり逢うこと、老への日々。日々を惜しむ心も切ですが、今年はどうな花との出あいがあるかとおもいで春を待っておりま

山野草の会に参加して

郡司誠子

厳しい自然の中に生きる植物は、強く美しい。そしてそれを愛する人は、なお美しい。山野草の会に参加するたびに、心が洗われるような気がする。あわただしく、ともすれば自分を見失いそうな毎日だからこそ、これからもできるだけ参加していきたいと思っています。昨年の夏の妙高は、予想以上に厳しかったけれど、深く心に残っています。



編集後記

懸案だった機関紙が、ようやく発行のはこびになりました。お忙しい中にもかかわらず、すばらしい原稿をおよせいただき心から感謝申し上げます。(小日向・郡司)

